

気道異物の除去とファーストエイド

気道異物

気道異物で重要なのは、窒息に気が付くことです。
「苦しい」「顔色が悪い」「声が出せない」等の状態では、
傷病者は、喉をつかむような仕草（窒息のサイン）をします。

このような仕草がみられたら、喉が詰まったのかを尋ね、
声が出せず、うなずくようであれば窒息と判断します。



窒息のサイン

【背部叩打法】

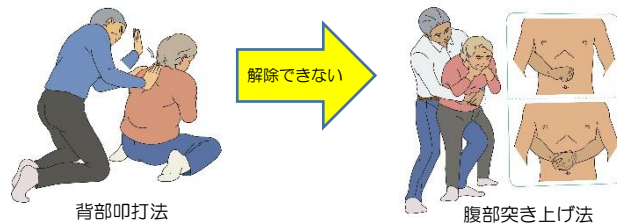
窒息のサインがみられた場合、まずは、背部叩打法により、異物除去を試みます。
背部叩打法のやり方は、傷病者を座らせるか、立たせた状態で左右の肩甲骨の間を、
力強く数回叩きます。

【腹部突き上げ法】

背部叩打法で異物がでない場合は、腹部突き上げ法を行います。
腹部突き上げ法のやり方は、傷病者のうしろから、ウエスト付近に手を回します。
どちらかの手で握りこぶしをつくり、上方に向かって圧迫するよう突き上げます。

明らかに妊娠している方や高度な肥満な方に対しては、腹部突き上げ法はせず、背部叩打法のみを行ってください。

なお、腹部突き上げ法を行い、異物がでた場合でも、腹部の内臓損傷の可能性があるので、
医療機関への受診が必要です。



背部叩打法

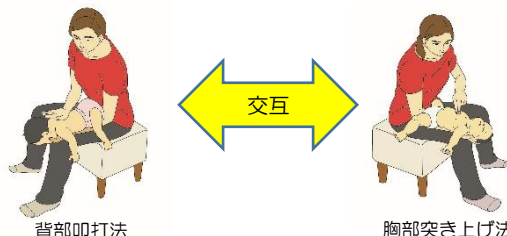
腹部突き上げ法

【背部叩打法と胸部突き上げ法】

乳児に関する異物除去法は、腹部突き上げ法を行わず、背部叩打法と胸部突き上げ法を繰返します。

背部叩打法のやり方は、片方の腕に、うつ伏せの状態ですべての乳児を乗せます。
あごをしっかり保持し、頭は下がるような状態にします。
そして、もう一方の手のひらの付け根で、背部を力強く連続して叩きます。

胸部突き上げ法のやり方は、片方の腕に、仰向けの状態で乳児を乗せます。
手のひら全体で、後頭部をしっかり保持し、頭側が下がるような状態にします。
そして、もう一方の手の指2本で、両乳頭を結ぶ線の少し足側（胸骨下半分）を力強く、
連続して叩きます。



背部叩打法

胸部突き上げ法

止血法

体内の約20パーセントの血液が失われると、出血性ショックという重篤な状態となり、約30パーセントを失うと命の危険がでてきます。

感染防止として、血液に直接、触れないよう、手袋やビニール袋等を活用して止血を行います。

【直接圧迫止血法】

止血法は、出血している部位を直接圧迫する、直接圧迫止血法が基本です。清潔なガーゼ、ハンカチ等を重ねた状態で傷口に当て、その上から強く圧迫します。



手袋を使用する場合



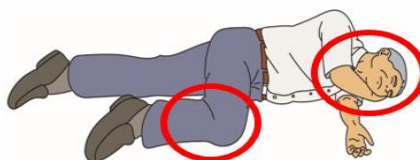
ビニール袋を使用する場合

体位管理

【回復体位】

反応はないが、普段どおりの呼吸をしている傷病者への対応は、回復体位をとり、救急隊が到着するまで観察を続けます。

回復体位のやり方は、①下になる腕を伸ばす。②上になる膝を曲げて、手の甲に顔を乗せる。③上側の膝を約90度に傾ける。救急車が到着するまで、慎重に観察してください。回復体位は、傷病者を横向きに寝た姿勢にして、喉の奥の空気の通り道（気道）を確保して、吐物により気道が詰まったりすることを予防します。



回復体位

熱中症

熱中症は、暑さや熱によって、体内の水分や塩分が失われることによる脱水状態です。立ちくらみ、こむら返り等の軽症な場合は、涼しい環境へ移動させる、衣服を脱がせ身体を冷やす（うちわや扇風機で風を当てる）、氷のうや冷却パックを首、脇の下、太ももの付け根に当てる。

頭痛や嘔気、倦怠感等の症状がある場合は、医師の診察が必要です。

また、意識がもうろうとしている状態や体温が極端に高い場合は、直ぐに救急車を呼んでください。



救急蘇生法の指針 2020（市民用）より引用



八千代市消防本部 救急課 電話:047-459-7804(直通)

FAX:047-459-6232

E-mail:kyuukyuu1@city.yachiyo.lg.jp

